

(續)



放魚前の準備

放魚前の重要な仕事は、池に施肥をし、害敵の予防をしておく事です。施肥の時期は冬季(一・二月)に施し、まず、池水を排出してから、人糞あるいは畜糞を施します。その分量は、一分地の池に對して、糞肥を二車ほどこし、新しい池に對しては、その二倍を施します。施肥後は、日光に三・四日晒乾させてから、入水します。

養魚の害敵と云ふのは、鱘、鯰などの小魚で、これに對しては、放魚前に茶粕(茶種子のカス)あるいは石灰を施して防治をします。施す方は、池に十五センチに引水した時に施し、一分地の池に對して茶粕二十五公斤、石灰十五公斤を施します。引水は一週間後に行ひ、その後放魚をします。

放魚

次に、いよく放魚とな

りますが、この時には水温に注意をします。まず、魚苗を竹カゴ或は桶に入れておき、もしその時の、桶の水温と池の水温の差が大きい時には、池の水を徐々に桶の中に注入して、桶と池の水の水温が等しくなるようにしてから放魚をします。なほ、放魚後には、魚の種類、數量、重量などを筆記しておく、後の参考となつて便利です。

給餌

給餌は放魚後第二日に開始し、餌としては米糠、豆餅、豆腐渣、豚血等をあたへます。その分量は、含水量の少ない米糠、豆餅などは魚總重量の百分の一・五を給へ、豆腐渣、豚血の如き水分の多い餌は魚總重量の百分の五を給へます。但し、草魚は大食するので、魚總重量の百分の十を與へる必要があります。このほかに餌としては魚は雑食家なので、家庭の食事の残り物など、何でも餌として利用できます。餌は一定の時間に、一定の場所から給へ、細く碎いて給へる事が大切です。なほ、以上に述べた餌の分量は、水温が高く魚の



給餌の様子

食慾が盛んな時で、寒い冬季には給餌を減少し、水温が攝氏十五度の時には給餌を停止してかまいません。

天然餌料と施肥

右に述べた餌のほかに、魚の營養にとつて大切なのは、池に自然に繁殖している浮生物で、これは眼に見えない極少な生物ですが、ビタミン・タン白質を豊富に含んでいます。魚池に肥料を施す理由は、このような天然餌料の繁殖を促進するためで、魚の成長にとつて非常に重要な事です。施肥の分量については前段に述べましたが、これは基肥で、その他に追肥が必要です。追肥は約二週間毎に施し、人糞、畜糞、堆肥などを毎回七・八公斤いれます。

肥料として

、人畜糞の代りに、化學肥料を使用するのも効果的で、アメリカ等に於ける養魚は全て化學肥料を使用しています。魚池が必要とする化學肥料は、窒素(氮)と磷で、加里(鉀)は必要ではありません。施肥量は一公頃の水に、一回一・二公斤を、十日に一回ほどこすのが理想です。この一・二公斤の混合肥料のう

ち、少くとも四十公斤の硫酸、五〇公斤の過磷酸石灰を混合する必要があります。なほ石灰窒素(靛氮化鈣)には毒性がありますが、絶対に使用してはなりません。

收穫

魚は十二月頃になると寒い氣候のために成長が停止するので、この時に收穫を行ふのが普通です。魚の收穫をするには、まず、魚池の水を水深五〇センチ位に排水してから、網でとりまします。網を投げた地点は、池底の浅い方向から引き、一回では足りませんから、二・三回網を投げます。その後は、池を完全に排水して、残つた魚を手で捕獲します。なほ、吳郭魚は約三ヶ月で産卵を開始し、繁殖が早いので、魚の密生を防ぐため、時々收穫して食用にすると良い。

次に、魚池一公頃について、どの程度の收穫を得られるでせうか。これは池の性質や養魚法によつて一定の差が生じます。魚池の肥料として、石灰窒素(靛氮化鈣)を使用しています。



鱧、鯉の如き魚は、池水が肥えて、池の保水力が良く、餌料が充分であれば、毎公頃について毎年二千五百から五千公斤の魚を收穫できます。

魚苗の價格

養魚に使用する魚苗は、どこで買つたら良いかと云ふ事は、前回で簡単に述べましたが、鯉の魚苗を欲しい人は、水産試験所臺南分所で購入すると良い。これには二種類あつて、本地産の大肚鯉と、日本産の大和鯉があるが、日本産の方が成長が早い。草魚、大頭、鱧などの魚苗は香港から輸入されますが、臺北附近で、これ等の魚苗を小賣りにしている所は、新莊山脚泰鄉明志村の王根、李清江、黃仕安の三氏と、楊梅鎮楊江里廿七號の葉阿昌氏などです。魚苗の價格は時期によつて一定せず、民國四十三年の五月に、臺南市では草魚苗(約四センチ)が每匹七角、鱧苗(約四センチ)が每匹四角二分であつたが、六月には、それら五角と三角二分に値段が落ちています。鯉と吳郭魚は、臺灣産なので、魚苗の値段が安く、二センチから五センチのもので、僅に每匹二分五分錢しかしません。(終り)



小麦の生育には、比較的寒く湿氣の多い氣候が適しているが、本省では一般に栽培が困難と考へられていますが、臺中地區等では比較的に氣候が適しているが、十月下旬から十一月月上旬にかけて播種をすれば、翌年の二・三月に收穫できます。小麦栽培には施肥の問題が最も重要と云はれていますが、これは麥類が肥料に對して非常に敏感で、施肥法の良否が、すぐに收穫に影響するからです。

他の作物と同じように、小麦の最も必要とする肥料は、窒素、磷酸、加里の三要素ですが、その作用を述べますと、窒素は收量と品質を改善し、磷酸は發芽や根の生長を促進し、加里は風水害、病蟲害などに對する抵抗力を強化する等の特點があります。この三要素のほか、臺灣では輕視されてはいますが、石灰も場合によつては非常に大切で、殊に酸性の土壤では、土質の改善のために石灰を使ふ事が必要です。

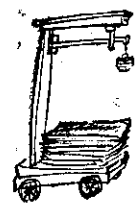
施肥量 氣候や土壤栽培法などの相違があるため標準の施肥量を決定するの

肥料種類	施肥量(公升公頃)
堆肥	4000
硝酸鈉	100
磷酸	100
鹽安	100
石灰	100

は難しい問題とされていす。然し、一般の場合を述べますと、毎公頃について、窒素八十公升、磷酸および加里各六十公升、そのほか、土壤の酸度により石灰の施肥量を決定しますが、その數量は多くとも四百公升を超過しないように注意します。

施肥法

石灰、有機質肥料、磷酸等は全量を基肥として施し、窒素肥料と加里肥料は、半分を基肥とし、半分を追肥として使用します。追肥は播種後二〇日に施します。石灰の使用法は、石灰全部を土壤と良く混合してから整地をします。堆肥を使用する時には、まず播種した後に堆肥を施し、その上から覆土をします。堆肥の用量が七千五百公升以上の場合には、まず、その超過した分量だけの堆肥を上中に鋤き込むか、或は條間に埋めまします。化學肥料を基肥として使用する時には、施肥をしてから、覆土をし、その上に播種をします。



加里草木灰を使用します

施肥の種類と用量は上表を參考にして下さい。この表のうちで、硝酸鈉の無い時には、石灰窒素を基肥として、播種する二週間前に施し、追肥として硫酸を使用します。なほ、熔燐は過燐酸石灰で代用してもよく、加里肥料としては硫酸加里草木灰を使用します。

分娩して二・三日すると、健康な母親なら、お乳が盛んに出て来るものですが、近ごろは母乳の出ない人が多くなりました。これには色々な原因がありますが、最近では米を精白しすぎて食べるので、一種の白米病に似た爲めとも考へられます。この場合には農復會の提唱するように、胚芽米を常食にするのも、良い方法です。

迷信と産婦の營養

要するに産婦の營養と云つても、普通人の場合と同じように、各種の營養物を平均して食べる事が大切で、ただ産婦の場合には、疲勞回復と乳を豊富にするため、肉類、卵類、海草類、野菜類などの營養物を、普通より多く食べる必要があるだけです。

分岐して二・三日すると、健康な母親なら、お乳が盛んに出て来るものですが、近ごろは母乳の出ない人が多くなりました。これには色々な原因がありますが、最近では米を精白しすぎて食べるので、一種の白米病に似た爲めとも考へられます。この場合には農復會の提唱するように、胚芽米を常食にするのも、良い方法です。

「焼」も無いはずですが、また、果物、野菜類には母親に必要なビタミンが豊富に含まれているので、肉類と共に大いに食べるべきで、消化の助けともなります。臺灣では、産後に腹の調子が悪く、便秘をしたり下痢をしたりする人が多いが、これは全く産後に消化の悪い肉食ばかりして、野菜や果物を食べないからです。また、臺灣では、産後の食事として、全てを麻油で煮たり、酒類を吞ませたりしますが、麻油は多すぎると消化に悪く、酒類は刺激物であるため、産後は、むしろ避けた方が良いでしょう。



食ひ合はせ 昔から食ひ合はせといもの、柿と蟹、葱と蜜、などを一諸に食へるとお腹を悪くしたり、身體に害があると信じられていますがこれは醫學的には根據の無い事です。これ等の多くは迷信であるか、或は食物が消化に悪いものである場合が多く、食ひ合はせ自身には害がありません。食ひ合はせを心配するよりも、暴飲暴食をしたり、消化の悪いものや、腐つた食物を食べないように注意する事が大切です。また、食ひ合はせを食中毒と同じように考へている人がありますが、食中毒は食物の中にバイキンや毒物が含まれているために發生するもので、全然同じくありません。

